

「古仁屋高等学校の大島紬伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島県立古仁屋学校

2 学年・人数

1年生（計17人）

3 日時・場所

令和4年11月24日（木） 古仁屋高等学校

4 伝承・活用に取り組んでいる伝統工芸品について

(1) 名称

大島紬（おおしまつむぎ）

(2) 由来

大島紬の発祥については諸説あり明確でないが、少なくとも18世紀には奄美大島に自生するテーチ木(リャリンバイ)の煎じ液で染め、泥田で染めたものをいざり機で織っていたと伝えられている。明治に入り本格的な生産に入り、現在では、奄美大島を中心とする奄美産地と鹿児島市を中心とする鹿児島産地に大別され、黒褐色を基調とした独特の幾何学的な伝統紋様が評価されている。

(3) 構成等

大島紬の伝統紋様は、トンボや亀の甲、風車などの奄美大島の自然や道具等をヒントに作られ、たて縞や格子などの簡素な紋様や幾何学的な紋様などから構成されている。現在は分業化が進み、約20程度の工程を経て製作されている。

5 保存会や地域との連携の具体

本場奄美大島紬協同組合青年部の協力の下、1年生の総合的な探究の時間を活用して、大島紬の歴史や製法や種類についての講話と大島紬の着付け体験を行い、大島紬への関心を深める取組を行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

実際に着付け体験を行う際には、青年部メンバーが着せるのではなく、生徒自身で着衣できるようなサポートをしてもらっている。また、講義では島外の人へも高校生が紹介できるような内容で説明してもらっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



大島紬を着用しての記念写真



着付け体験風景

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【生徒】

- ・ 思っていたよりも軽く，肌触りもよかった。今度は，泥染の体験にも挑戦してみたい。
- ・ 組合の方から大島紬のことを詳しく聞けてよかった。

【教職員】

- ・ 生徒も日常ではなかなか接することの少なくなった大島紬に関して，講義を通じて沿革や特徴を理解することができたようだ。また，着付け体験では，着物着用時の体感などからも素材や技術の素晴らしさを実感できたようだ。
- ・ 格調高い伝統文化に触れることができたと同時に，大島紬が非常に身近なものとして捉えられるようになった。